

ふるさとわがまちづくり

さなげ台自治区

伝えたいもの・・・これまで・・・

午後6時ジャスト。猿投地区には唱歌「ふるさと」が流れる。

日没が5時近くになった晩秋の頃には、あたりが暗くなり、徐々に家庭の、ほのかに温かい灯りが点き始め、この歌の詩情を一層掻き立てる。古くからの「ふるさと」が今も息づいているようだ。

つい先日、朝7時半から交差点での交通安全立哨。20分も経った頃、心身が引き締まる歓声が近づいてきた。「おはようございま～す!」「行ってきま～す!」通学団生徒の底抜けに明るい挨拶が響き渡る。親御さんの愛情に包まれた子供たちの「今日も1日がんばるぞ!」との意気込みが伝わり、おじさん・おばさんたちも思わず奮起する。「そうだ。団地で作り上げてきたもので、一番誇れるものは、朝夕の自然な“あいさつ”だ」。

あいさつのあるまち

“あいさつ”が風化し、まちの人間関係の希薄化が叫ばれる中で、この子供たちの屈託のない、この爽やかさはどうであろう。通学団のあいさつ風景は、思えば、団地が27年前に誕生以来、先輩から後輩へ営々と受け継がれてきている。この営みの中で、子供たちは、年上の者が年下をいたわることや友を得ること、付き合いの微妙さや心配り等を体で学び、健全な大人へと羽ばたいていったことと思う。



伝え続けたいもの・・・これから・・・

団地行事参加者の少子高齢化、駐車場の増加、随所で行われている家のリフォーム。これらに27年の歴史がみらる。

かつての子供たちも成人し、ある者は団地にとどまって早くも親となる一方で、縁あって豊田を離れた者も、全国各地で活躍していることだろうか。新聞や雑誌、ラジオ・TV等で「私にとっての故郷」が取り上げられ、それらを眼に、耳にすることが多い。私たちの子供たち(第2世代)も、いつの日にか子や孫に故郷を語り継ぐであろう。

その時には、おじいさん・おばあさんは無論のこと、あやめ池、さなげ台生協、一号公園、加納小、猿投中、納涼祭、マラソン大会、収穫祭芋掘りといった言葉が語り継がれ、イメージづくりに大いに役立つことであろう。

何も無かった27年前、自然環境づくりに尽力されたシニアの方たち、PTAや通学団で子供を支えて頂いたお母さんたち、規約や規則・組織を創り、自治区活動を血肉あるものにと頭を使い、より暮らしやすいまちを追求してきた27年間の団地第一世代。皆がさなげ台団地



子ども会活動

=「故郷」作りの功労者と言えよう。

故郷を異にする親たちが、次世代にプレゼントした共通の「ふるさと」。いつまでも元気な声が行き交い、自然に恵まれた私たちの“心のオアシス”であってほしい。(1組 栗山敬行 記)

<付記>昭和55年に50戸の分譲でスタートしたさなげ台団地は、平成19年4月現在527戸(世帯)の大きな団地になりました。

さなげ台自治区データ

(H19.4 現在)

設立：昭和57年
世帯数：527世帯
125世帯(昭和57年)
組数：35組
面積：0.21Km²
自治区たより：「あやめ」年4回
回覧：月2回
ちびっ子広場：5箇所
防犯灯設置箇所：106箇所
小学校：加納小学校区
自治区会館：さなげ台自治区会館

